

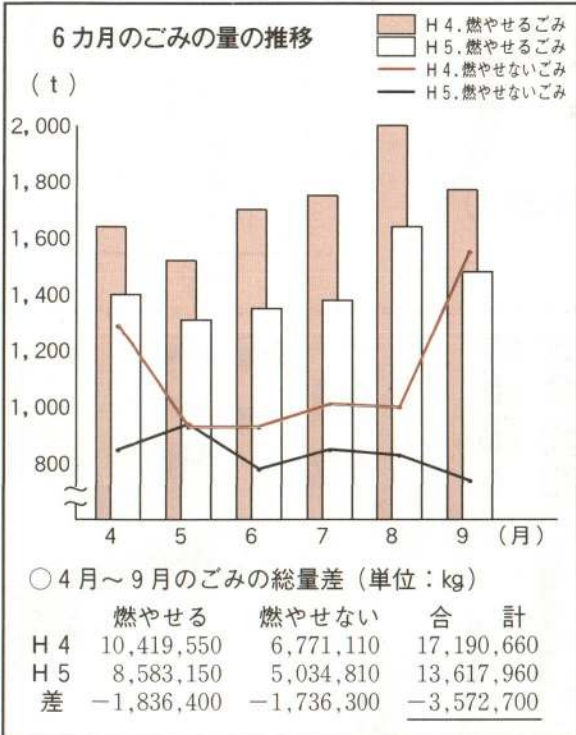
スタートして7か月 順調ですごみみの分別

今年四月にスタートしたごみの分別収集。実施後しばらくは、このごみは燃やせるごみかどうかなどの問い合わせがたくさん寄せられました。これまで大きな混乱も無く順調に進んでいます。

1人1日当たり

286g減少

四月から九月まで六か月間のごみの収集量を昨年同期と比べ



ると、燃やせるごみが一、八三六ト、燃やせないごみが一、七三六トそれぞれ減少。今年新しく設けられた「資源ごみ」は四七九トで、これは一〇〇%の増加ですから、総体では三、〇九三トの減少となります。一人一日当たりのごみの量を比較すると、昨年より二八六g(約二〇%)減っています。

資源ごみについては今年から分別の種類に加えられ、月に一度の市の収集と、従来の町内会

や子供会などによる集団回収の二通りの方法で集められています。集団回収による収集量は昨年が七〇七トで、今年は六〇五トですが、今年市の収集分四七九トも加わって合計一、〇八四トとなり、昨年より三七七ト増加していることになりました。

ごみの総量が減少し、相対的に、燃やせるごみ・燃やせないごみが減って資源ごみが増えていることは、ごみの分別収集の結果が表れてきているといっています。もちろん、指定ごみ袋の使用が分別の進行に拍車をかけているの言うまでもありません。

効率的なごみ処理

まずは分別から

市では、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」「処理困難ごみ」の五つにごみの分別をお願いしています。また、ごみを出す際には指定のごみ袋を使ってもらい、名前も書いてもらって、正しく出されていないごみは収集しな

いことなどで分別の徹底を図ってきました。その結果、ごみはごみとして、再利用できるものは再利用できるものとして収集されだしていることが、数字のうえでも読みとれます。

また、分別収集が始まったころと今とでは、問い合わせの内容にも変化がみられます。当初はごみの分け方についての電話が相次ぎましたが、現在は「指定ごみ袋のサイズの種類を増やしてはどうか」「スーパーの袋がもったいないから使えないか」など、分別を基本に据えている意見が多くなっています。

市ではこうした意見を十分検討し、また可能かどうかを模索しているところですが、ごみ収集の大前提にあるのは「混ぜればごみ 分ければ資源」とおり、まずは分けること。ごみの減量も、効率的なごみ処理も分別されていてこそです。

ごみ問題は私たちの暮らしと切り離しては考えられませんし、それは環境、資源、消費、健康などさまざまなことに関連し、これらを一体として総合的に見つめ直していかなければなりません。ごみを出す私たちのモラルによるところも大きいといえます。ごみを分別してリサイクル・再資源化の輪の中に組み入れ、一層効率良く処理するため、これからもご協力ください。

市長リポート



No. 56

皆さんの「一燈」を

私たち大館市民は石田博英氏を誇りに思います。

石田先生は大館市をこよなく愛され、本市発展の礎となるべき重要政策課題の実現に大いなる力を注がれました。さらに、石田イズムともいうべき深遠高邁なる政治哲学をご教示いただきました。

私たちは、先生が確固たる政治哲学を確立され、実践されてきたことを誇りに思います。

しかし、私たちはそれを十分理解し得ないまま、先生とお別れすることになりました。誠に断腸の思いであり、深い悲しみを覚えずにはいられません。

西方への旅立ちに際し、私たち大館市民一人ひとりの一燈(真心)を、行路を照らす一条の光としてください。

一燈を掲げて暗夜を行く
暗夜を憂う勿れ

唯、一燈を頼め
どうか、先生安らかに眠りください。

小畑 元